

特集

# この本と私

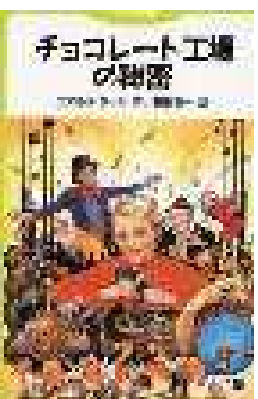


## 「チョコレート工場の秘密」

ロアルド・ダール 著

図書館の児童文学のコーナーで見つけた本です。どんな秘密なのかなあと思うより先「おいしそう」な感じがしたので借りました。家がとても貧しく、いつもお腹をすかしている男の子チャーリーが、世界一大きくて有名なチョコレート工場見学の招待状を手に入れたから話は急展開してゆく。が、それまでの前半部分は、チャーリーと対照的な境遇の裕福な4人の子供たちがチョコレートの中に入っている招待状を手にする様子と、その話を聞いているチャーリーの好転しない境遇が書かれている。彼も二度チョコを買ってチャレンジするのだけれど、二度ともはずれ。そのうちにお父さんが失業してしまい、もつとお腹をすかせることになって、体力温存方法などを考え出したりする。この場面では読みながら迫力を感じた。読み終えて「人は切羽詰ると真剣に物事を考え、より良い方法を色々編み出す」だから迫力を感じたし、物語はハッピーエンドに向かつて次の展開を迎えることができたのかもしれないと思った。最後はチャーリーを除く4人の子供は、見学にあたってのマナーを守れず、お仕置き?のような散々な目にあう。そして、チャーリーはチョコレート工場の後継者に選ばれハッピーエンドを迎える。さらっと大事なことが書かれていて、最初の「おいしそう」という印象が飛んでしまった本でした。

扶紀子



評論社 てのり文庫

田村隆一 訳

掲載の記事・写真・イラスト等の全てのコンテンツ無断複写、転載を禁じます。

(株)ファッションビジネス・御堂筋新聞